

■ヨルダン：国内初の原子力発電所にロシア製原子炉

ヨルダンの原子力委員会（JAEC）委員長は2013年10月29日、国内初の原子力発電所はロシアの国営原子力企業ロスアトムが建設することになったと発表した。100億ドルと伝えられる総費用については、ロシアが49%、ヨルダン政府が51%を負担するとされている。JAECは2010年5月、アレバ・三菱重工のATMEA1、ロシアのアトムストロイエクスポート（ASE）のVVER-1000（AES-92）、カナダのSNCラバリン社の改良型CANDU-6を最終候補とし、2012年4月には、VVER-1000とATMEA1に絞り込んだ。原子炉2基が建設される地点は未定で、JAEC委員長は「アムラ地域のザルカ市の東約60キロ付近」と語ったが、ロスアトムは、「建設地点はイルビド市近傍で、アンマンから北へ約70キロの地点」としている。ヨルダンは以前、出力75～100万kWの原子炉の建設工事を2013年に着工、2020年頃に1基目、2025年頃に2基目をそれぞれ運開することを目指していた。